

## 空中物理探査の防災調査への活用事例 - 跡津川断層調査

The application of the airborne survey for disaster prevention - A case study of geological survey for the Atotsugawa fault.

# 結城 洋一 [1]; 田中 秀実 [2]; 畠山 晃陽 [3]; 池田 和隆 [4]; 中山 文也 [5]; 中村 克 [6]

# Youichi Yuuki[1]; Hidemi Tanaka[2]; Koyo Hatakeyama[3]; Kazutaka Ikeda[4]; Fumiya Nakayama[5]; Masaru NAKAMURA[6]

[1] 応用地質; [2] 東大・理・地球惑星; [3] 応用地質(株); [4] 応用地質; [5] なし; [6] 応用地質

[1] OYO; [2] Dept. of Earth and Planet Sci., Univ. Tokyo; [3] OYO; [4] none; [5] none; [6] OYO Corporation

空中物理探査は、空中から広域を地下情報を短時間に調査できる調査方法である。人が調査地内に立ち入らないで調査できるため、山間地や危険地帯でも調査することが出来る。また、空中物理探査は三次元的なデータを取得できる特徴がある。

空中物理探査を地震災害、斜面災害、火山災害などの災害調査に活用することにより、自然災害に対する防災情報の基礎データとして活用することが出来る。本発表では、防災調査の実施事例として、跡津川断層で実施した調査事例を報告する。